

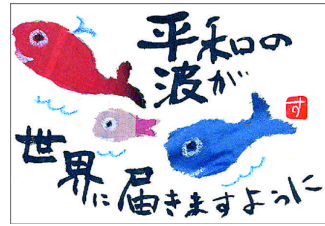
# 新婦人しんぶん

## 新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

## 今週の紙面

- 2面 女性ニュース
- 3面 読者のページ/まんが/俳句
- 4面 年金/女性史/人「性」いろいろ/法律相談
- 5面 憲法/ホット
- 6面 エコバッグの手入れ/一品/母の歴史
- 7面 新婦人のページ/主張/北京+25



横浜市 高橋すま子

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

## SDGs 持続可能な開発目標

世界を変えるための17の目標

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任 つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさを守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナースHIPで目標を達成しよう

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

1 貧困をなくそう

2 飢餓をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 働きがいも経済成長も

# コロナ禍をのりこえる ものさしは SDGs

# だれ一人とりののりこえない社会へ



くにやひろこ 米国ブラウン大学卒業。国連食糧農業機関 (FAO) 日本担当親善大使。1993年から2016年までNHK総合「クローズアップ現代」のキャスターを務める。1998年「放送ウーマン賞97」、2011年「日本記者クラブ賞」、16年「ギャラクシー賞特別賞」を受賞。著書に『キャスターという仕事』(岩波新書)、監修『国谷裕子と考えるSDGsがわかる本』(文溪堂)

## 国谷裕子さんに聞く

新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)が続くなか、この危機をどう乗り越えて、どんな社会をめざすのか。NHK「クローズアップ現代」で23年にわたりキャスターを務め、現在はSDGs「持続可能な開発目標」の取材、啓発活動に力を注いでいる国谷裕子さんに聞きました。

### 危機のいまこそ

「新型コロナの世界へ与える影響が、目を追うごとに深刻になっていきます。そうですね。食糧不足で苦しむ人々が、パンデ

ミック前より8割増の2億7000万に上る恐れがある(国連WFP)など、飢餓パンデミックも危惧されています。貧しい人がより貧しくなる、あるいは失業する。これまでわかってきた社会の脆

弱性が、さらに影響を受けて痛めつけられています。

「SDGsは理想的すぎるのではないか」「達成できるはずがない」など悲観的な声も聞かれます。しかしまずは、2015年、SDGsが国連に加盟する193のすべての国によってつくられたこと、それは、このままでは私たちの命を支えている地球が持続可能で

きないという強い危機感と、やっぱり取り残される

### コロナを触媒に 新しい世界へ

「コロナ危機を乗り越えるために、この道しるべがますます重要になってくる...」  
おっしゃる通りです。そもそも新型コロナのパンデミックは、人間が見境なく自然を破壊する中

る人が多い、だれ一人とりのこさないと、格差拡大が背景にあったことを思い起こし、共有してほしいと思います。

国連70周年にあたっていた同年12月、産業革命前から世界の平均気温を2℃未満に抑え、1.5℃未満を目指す「パリ協定」も採択されました。

世界で分断が進むなか、私たちが、SDGsとパリ協定という、世界共通の大事なものさし、みんなをめざすべきゴールを手に入れていることはある意味、奇跡的なことかもしれませぬ。

でつくりだされたものですし、数年前から専門家にによって感染症のリスクについて警鐘が鳴らされてきたにも関わらず、私たちの社会は備えることができませんでした。

国際情勢をみると、自分さえよければという一国主義の強まりなど分断がすすんでいます。ウイルスは国境をまたいで世界に広がっていくわけですから、グローバルに力を合わせて抑え込まなくてはなりません。

「SDGsとは2030年までに達成をめざす「持続可能な開発目標」のこと。2015年、国連加盟国が全会一致で採択。地球規模の脅威を共有し、貧困や環境、ジェンダーなど17の目標と169のターゲットを掲げる。」

で、社会の一員として取り組み、支え合う考えで格差や不平等が広がらない社会がいいね、気候変動にしっかり向き合いたいなど、若い世代も巻き込んで前向きに社会をデザインしていく。コロナ禍の中だからこそ、国も企業も、地域社会も、そして一人ひとりの力やテクノロジーの力、お金の力を誘導し、あるべき社会の実現へ急がなければなりません。世界に大きな苦しみをもたらしている新型コロナを触媒(反応の速度を変化させる物質)にして、新しい世界への動きを強めていくことが今とても重要になっていきます。

〈2面へ〉

9月24日号は休刊です

